

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 50代	悪性神経膠腫 (なし)	120mg 42日間	全身性中毒性表皮壊死症	
				投与12日前	デキサメタゾン投与開始。
				投与開始日	本剤＋放射線療法開始(2Gy×30回)。本剤投与開始時の患者のPerformance Status: 1。
				投与42日目 (投与終了日)	皮膚症状なく本剤投与終了。
				終了1日後	当初、胸腹部～背部に3mmほどの暗赤色調の融合傾向のない丘疹が対称性に散在。痒みも出現する。膨疹ではなかった。薬疹を疑いスルファメトキサゾール・トリメトプリム、ランソプラゾール中止。
				終了4日後	発熱はないが、悪寒を訴える。薬疹は首、体幹、腕、大腿部に広がり、十全大補湯も中止。
				終了7日後	本剤が最も疑わしいとしてランソプラゾール、十全大補湯再開し、軟膏処置。
				終了8日後	放射線療法終了。
				終了9日後	背部で表皮剥離に進展。皮膚科にて全身性中毒性表皮壊死症と診断された。皮膚所見: 水疱・びらん、ニコルスキー現象あり。粘膜所見はなし。ステロイドパルス(メチルプレドニゾンコハク酸エステルナトリウム1回1000mg/day)で3日間治療後、プレドニゾン注射40mgを3日、その後20mgを9日で皮膚科治療終了。
				終了14日後	DLST 検査陽性(最大SI: 4.5, 最大反応値(CPM): 708)。
終了20日後頃	全身網目状の発赤疹があるが、消退傾向みられ、痒み等の自覚症状も軽快。 感染の有無: 単純ヘルペスウイルスなし、マイコプラズマなし。多臓器障害の発現なし。				
併用薬: グラニセトロン塩酸塩, 濃グリセリン・果糖配合剤, 維持液, ランソプラゾール, 十全大補湯, デキサメタゾン, スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤, ヘパリンナトリウム					

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	女 60代	脳新生物 (頭蓋内動脈瘤)	100mg 5日間	Stevens-Johnson症候群	
				投与 15 日前	開頭腫瘍摘出術施行。
				投与 14 日前	フェニトイン投与開始。
				投与開始日	本剤＋放射線療法開始。
				投与 5 日目	左頬部～下顎にかけて赤色皮疹（搔痒感伴う）。口唇部にヘルペス疹を疑う。また、口唇は腫脹し、両側眼脂あり。帯状疱疹も考え、アシクロビル点滴とグリチルリチン製剤を投与。
				投与 6 日目 (投与中止日)	眼科及び皮膚科を受診。Stevens-Johnson症候群を疑われ、本剤とフェニトイン内服は中止。ステロイドパルス療法を3日間行った（その後は漸減）。この時、眼瞼結膜、口唇、硬口蓋にびらんと、全身に赤色丘疹拡大していた。ステロイド投与前の本剤とフェニトインに対するDLST結果は2剤とも陰性であった。
				中止 2 日後	全身に水疱が散在。
				中止 8 日後	顔面皮疹軽快。
			中止 23 日後	足趾爪脱落。	
			中止 30 日後	Stevens-Johnson 症候群は軽快。	
併用薬：フェニトイン					

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
3	男 60代	多形性神経膠芽細胞腫 (高血圧)	120mg 10日間	Stevens-Johnson症候群	
				投与 14 日前	開頭腫瘍摘出術施行。
				投与開始日	フェニトイン投与開始。
				投与 6 日目	本剤＋放射線療法開始。
				投与 8 日目	左頬部～下顎にかけて赤色皮疹（搔痒感伴う）。口唇部にヘルペス疹を疑う。また、口唇は腫脹し、両側眼脂あり。帯状疱疹も考え、アシクロビル点滴とグリチルリチン製剤を投与。
				投与 9 日目	眼科及び皮膚科を受診。Stevens-Johnson症候群を疑われ、本剤とフェニトイン内服は中止。ステロイドパルス療法を3日間行った（その後は漸減）。この時、眼瞼結膜、口唇、硬口蓋にびらんと、全身に赤色丘疹拡大していた。ステロイド投与前の本剤とフェニトインに対するDLST結果は2剤とも陰性であった。
			投与 10 日目 (投与中止日)	全身に水疱が散在。	
併用薬：フェニトイン、ランソプラゾール、ジフェンヒドラミン・ジプロフィリン配合剤、ジフェニドール塩酸塩、ミルナシプラン塩酸塩					